



平成31年1月21日

川西町議会議長 加藤 俊一 殿

川西町議会 会派「緑風会」

平成30年度 会派「緑風会」視察研修報告について

平成30年度の会派「緑風会」の視察研修について、別紙のとおり終了したので報告する。

## 平成30年度 会派「緑風会」視察研修（報告）

- 1 視察期日 平成30年12月19日（水）～20日（木）
- 2 視察地
  - (1)愛知県豊橋市 愛知大学、豊橋市と市議会
  - (2)東京都新宿区 日本青年団協議会、一般社団法人・日本青年館
- 3 視察 出席者

### <緑風会>

緑風会代表 高梨 勇吉

会 員 斉藤 智志、橋本 欣一、鈴木 幸廣、伊藤 進

※ 共栄会会派と合同での視察研修となった。

共栄会代表 齋藤 修一

会 員 加藤 俊一 議長、遠藤 章一 副議長、鈴木清左衛門

### <愛知大学>

越知 専 本間喜一先生顕彰会 名誉会長

倉橋 健二 本間喜一先生顕彰会 会長

藤田 佳久 名誉教授・理学博士

岩崎 正弥 地域政策学部教授・農学博士

功刀 由紀子 地域政策学部教授・農学博士

田辺 勝巳 豊橋研究支援課 課長

中野 貴文 広報課 課長

中野 憲一 総務課地域連携室

### <東愛知新聞社>

竹下 貴信 企画部・記者

### <豊橋市>

佐原 光一 豊橋市長

藤原 孝夫 豊橋市議会議長

伊藤 篤哉 豊橋市議会副議長

森田 教義 豊橋市議会事務局長

### <日本青年団協議会、一般社団法人・日本青年館>

棚田一論 日本青年団協議会 総務部長

山本信也 一般社団法人・日本青年館 常務理事

佛木完 一般社団法人・日本青年館 総務部長  
澁谷隆 一般社団法人・日本青年館 公益事業部長

#### 4 愛知県豊橋市と愛知大学の概要

##### (1) 豊橋市の概要

豊橋市は、東に弓張山系を境に静岡県と接し、南は太平洋、西は三河湾に面しており、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた人口 38 万人、面積 261.86 平方キロメートルであり愛知県第二の都市です。

主な産業の農業は、豊川用水の豊かな水と温暖な気候に恵まれ、農業が大変盛んに行われています。露地野菜、果樹、園芸作物、稲作など多種多様な作物が栽培されているほか、日本一の飼育羽数を誇る養鶉を始め養豚、養鶏などの畜産も盛んで、全国トップクラスの農業算出額を誇る産地となっています。

また、地場産業において「筆」「刺子」「帆前掛」などがあります。なかでも「豊橋筆」は、伝統工芸士により伝えられる国指定の伝統工芸品であり、現在も殆んど伝統的な技法により手作りで、書道用を中心に工芸用、日本画用など高級筆のシェアでは全国の 70% の生産量を誇っています。

工業においては、明治以来の繊維工業、木材、木製品工業と、昭和 10 年代から 20 年代にかけて急速に発展した食品加工と機械器具工業などを中心に発展しました。昭和 30 年代後半からは、東三河工業整備特別地域の指定・三河港の重要港湾指定を弾みに、臨海工業地帯の整備が進み、造船、金属、機械、自動車、電機、精密機械、化学繊維などの産業が進出しました。明海地区と神野西地区では、ドイツの化学メーカーを始め、欧州の自動車メーカー、ブラジルのシューズメーカーが相次いで進出し、豊橋港周辺は、多様な業種構造を特徴とする工業地域として発展を続けています。

##### (2) 愛知大学の概要

愛知大学は、1946 年（昭和 21 年）東亜同文書院大学最後の学長本間喜一氏（川西町出身）をはじめとした東亜同文書院大学関係者が中心となり、横田忍豊橋市長の支援もあり、豊田市の旧陸軍士官学校（旧陸軍第 15 師団）の跡地に、当時、中部地区唯一の法文系大学として設立されました。設立に当たり、吉田茂内閣総理大臣に旧制大学として許可され、日本で 49 番目の開学となりました。

愛知大学は、戦後混迷の時代、初代学長・林毅陸氏、第 2、4 代学長・本間喜一氏、第 3 代学長・小岩井浄氏らにより礎がつくられ、愛知大学の「愛

知」は「智=知を愛する者が集う」を意味し、設立趣旨には戦後創立された大学としては画期的な「国際的な教養と視野を持った人材の養成」「地域社会への貢献」が明記されています。

現在の愛知大学は、豊橋市内に「豊橋キャンパス」、名古屋市内に「名古屋キャンパス」を擁しており、学生は、1万人を数えています。

本部事務所は、「愛知大学記念館」内にあり、同記念館には、「愛知大学東亜同文書院大学記念センター」があり、愛知大学のルーツ校である中国・上海にあった東亜同文書院大学と愛知大学に関する史資料の展示や近衛篤磨、文磨（第34・38・39代内閣総理大臣）を含めた近衛4代の書、孫文に関わる史資料等日本有数の展示も行っています。

## 5 愛知大学、豊橋市での視察研修内容

- 愛知大学記念館を見学させていただき、愛知大学の歴史を学ぶとともに、川西出身者・本間喜一氏の業績、偉大さを改めて知ることができました。
- 「本間喜一奨学金給付制度」に対する愛知大学の期待を感じると共に、私たち川西町議会議員の期待も伝えることもできました。
- 豊橋市における生活費（アパート代など）は、山形県と比較し高額とは言えず、生活しやすい環境であると感じました。
- 学力においては、「学生の意欲の問題」であり、大学の先生方も十分にサポートさせていただき旨の説明を受けました。
- 豊橋市での視察研修では、豊橋市の産業、環境の素晴らしさを改めて学ぶことができ、「推薦制度」で入学した学生が地元に戻らなくなるのでは、ないかと心配するほどでした。
- 「本間喜一基金」については、「本間喜一奨学金給付」だけではなく、豊橋市と川西町の交流事業にも活用してほしいとの「越知専 氏の創設の意義」を聞き、私たち両会派議員の総意として豊橋市との交流を深めたい旨をお伝えしました。

## 6 日本青年団協議会の概要と視察内容

### (1) 日本青年団協議会の設立経過と目的そして活動

日本青年団体協議会（略称・日青協）は、青年の生活向上や平和と民主主義の確立を目指して、1951（S26）年に結成されました。青年団は、青年自身の手による自主的な運営団体であり、地域単位で主体的に組織がつけられ

ていったことに大きな特徴があります。

また、青年団は、地域の最小単位の青年団から組織をつくりあげ、都道府県ごとの青年団の連合（協議）体に加え、全国組織の「日本青年団体協議会」の結成となっています。このような組織は、日青協の大きな特徴となっていて、団員一人ひとりの願いが全国の運動に反映される仕組みとなっています。なお、発足当初は47都道府県中24府県の連合青年団が加盟していました。

青年団の大きな活動の柱は、「心身の修練とより良き個人の完成」「友愛と共励」「住みよい郷土社会の建設」「世界の平和」を綱領とし、若者の夢や希望を実現するため、地域を舞台に活動・運動に取り組んできています。

全国青年大会は、毎年11月に東京で開かれる35歳以下の地域青年を対象とした全国規模のスポーツ・文化の祭典です。日ごろ取り組んでいるスポーツや文化活動の発表の場として、予選大会等を経た各都道府県代表の青年男女が集まり、4日間（11月上中旬の金曜～月曜）にわたり行われています。また、この大会は、参加者の交流と友情を深め、平和な地域社会を創りだし、スポーツと文化の裾野を拓げることに重点を置いています。なお、2005年（平成17年）の第54回大会までの大会参加者総数は、延べ35万人だそうです。

主な財源は、加盟団からの拠出金（会費）です。他には、日本青年館からの奨励金、事業収入、寄付金などで運営されています。全国青年大会については、別会計となっています。

昨年（2017年）11月に開催された第66回大会の全国青年大会では、山形県からは川西町「犬川青年団」が、軟式野球山形県チームとして始めて出場しました。結果は、1回戦・沖縄県のチームと対戦し、惜しくも敗退となりました。

## （2）組織の現状

昭和20年代を頂点に団数、団員数が減少してきました。高度経済成長期に地方青年層が都市へ流出し、都市近郊においては通勤青年化し青年団の存続が困難になっています。また価値観の多様化により青年層への青年団の求心力が低下しています。この背景としては、青年団が社会的役割を喪失しつつあることであり、大衆向け娯楽の普及、行政サービスや商業サービスの充実により相対的な公益性が低下し青年団の社会的存在意義が問われています。また、青年団が自主性をもった反面の弊害も発生しています。

戦前の青年団は、行政当局の主導で組織化された官制青年団であり、入団も半ば強制的な面もあったが、戦後は全くの任意団体となりました。自主的団体ではあるものの、このため、休廃団への抵抗感が薄くなった面があり、

多くの青年団が活動を停止せざるを得ない状況に至っています。

山形県内では、置賜地域に川西町の「犬川地区青年団」と南陽市に「梨郷地区青年団」の二つがあり、その他は、天童市、河北町にそれぞれ一つの青年団が存在するのみとなっています。

## 7 一般財団法人・日本青年館の概要

一般財団法人「日本青年館」は、全国の青年団関係者にとっては80年以上にわたる青年団運動の総本山として位置づけられる重要な財団・施設です。館内には日青協の事務局が入居しており、日青協主催行事はここを拠点にしながら開催されています。

また、特に終戦前後の青年団全国組織の空白期には、日本青年館が全国の青年団を結ぶ役割を果たすなど、施設面だけでなく、青年団を助長する財団としての活動も担ってきています。現在も全国青年大会などの日青協との共催事業を始め、職員の雇用や青年問題研究所の活動を行っています。

## 8 視察の終わりに

愛知大学と本町の関わりは、愛知大学を設立した本町出身の本間喜一名誉学長の縁で始まりました。平成30年3月には、本間喜一先生顕彰会・名誉会長の越知 専氏からの5,000万円ものご寄付頂き、返済不要の「給付型奨学金制度」の創設に至り、さらに強い絆ができました。

今回の緑風会と共栄会合同の視察研修は、この縁をさらに強固なものとするため、また奨学金を拡張して頂く学生さんが多く活用し、愛知大学・豊橋市との友好関係がさらに深まることできるよう訪問させていただきました。

今回の視察研修を通して、改めて本間喜一先生の偉大な功績を確認させて頂くと同時に、奨学金制度の活用を通して、「山形・川西町と愛知大学・豊橋市との人材交流」の意義と必要性を確認できたことは大きな成果でした。

日本青年団体協議会「日青協」と一般社団法人・日本青年館への表敬訪問では、それぞれの団体幹部の皆さんにお忙しい中対応して頂き貴重な情報とご意見を頂き有意義な研修をすることができました。

青年団の組織が、全国的に激減していることをお聞きしながら、改めて「青年女性関係の組織、社会・企業内教育、生涯教育・スポーツ教育、文化」等が果たしてきた教育力の低下を改めて確認することができ、今後の大きな地域の課題であり、教訓となりました。